



消化器と口腔外科領域で 急性期から回復期まで 幅広い医療を提供

昨年、医療法人ラポール会は大きな変革を迎えた。樋口先生が新たに理事長に就任。グループ内で中心的役割を果たす青山病院は40周年を迎え増改築も行われた。この節目に際し、樋口先生と青山病院院長の岡田先生にお話をうかがった。



医療法人ラポール会 青山病院
樋口 和秀 理事長 **岡田 薫** 院長

消化器系医療の強化

充実した体制を構築し 地域医療に貢献

藤井寺市周辺において、消化器疾患や口腔外科疾患を中心とした医療に尽力してきた青山病院。この度、樋口先生が理事長に着任したことで、その能力はさらに強化される。「私は過去に大阪医科薬科大学の教授を務め、現在は日本消化管学会の理事長を務めるなど、内科学や消化器病学の発展に力を注いできました。今後は経験や人脈を活かし、地域に貢献していければと思います」と樋口先生。その言葉を受け院長の岡田先生は「樋口先生の就任後、医師の招聘や医療機器の導入が進み、特に消化器系において、急性期から回復期まで幅広い医療を提供できるようにになりました。その能力を活かし、より一層地域の皆様の健康を支えられれば」と語った。



1.青山病院では歯科口腔外科の手術に対応。急性炎症顎骨壊死、顎関節症、睡眠時無呼吸症候群などを専門に治療している。 2.昨年大幅なリニューアルが施され、内装も美しく変化した。 3.食事につながる健康を重視する青山病院では栄養科を設置し、入院患者に対してバランスの取れた食事を提供している。 4.言語聴覚士による嚥下機能訓練の様子。言語聴覚士以外にも、理学療法士、作業療法士が複数在籍し、充実したリハビリを受けることが可能。



健診にも注力している同院では大腸CTを導入。「前処理も簡単で、検査も短時間で終わるので女性や高齢の方でも受けやすく、得られる情報は大腸内視鏡に引けを取りません。健診の強い味方になると考えています」と樋口先生。

病院の強みについて

自力で食べる力を守る 嚥下機能の診療

「当院では近隣でいち早く大腸CTを導入しました。大腸がんは女性のがん死亡原因の1位で、がん検診で要検査となったのに大腸内視鏡検査に抵抗があり、躊躇している間にかがんで進行してしまつケースも少なくないと思います。そういう方に受診いただき、大腸がん死を減らしていきたい」と樋口先生。「嚥下機能を守ることにも注力しており、嚥下造影・嚥下内視鏡を積極的にを行っています。嚥下造影はレントゲン下に嚥下時の食物の流れや筋肉の動きを観察し評価する検査、嚥下内視鏡は経鼻内視鏡を使い咽頭の食物の滞りや声帯の動きを見ることで嚥下能力を評価する検査。これらの結果をふまえ嚥下リハビリテーションを進めます。言語聴覚士も10名以上在籍しており、重点的な嚥下機能回復を行います」と岡田先生は語る。

地域包括医療の実現

藤井寺周辺で完結する 医療体制を目指す

最後に病院の展望についてうかがった。樋口先生は「高齢化が進む現代において、住み慣れた場所で医療が完結することは非常に大切です。その実現のためには当院だけでなく、医師会や開業医の方とも連携を強める必要があります。現在積極的に働きかけているところですよ」と語る。岡田先生も「これまで新型コロナウイルスの影響もあり、難しいところがありました。これからはフェイス・トゥ・フェイスで当院の強みを紹介し、スムーズな連携ができる体制を作っていきたいと思っています。藤井寺市周辺にお住まいの方が、医療に困ることがないように尽力していきたいと思っています」と、強い意志を滲ませた。



病病・病診連携をスムーズに行うために設置された地域連携室。藤井寺における地域包括ケアシステムの成熟に向けて、地域の先生方との連携に尽力している。